

## 聖霊降臨節第23主日礼拝 説教「大きな愛」

ルカによる福音書 第7章36～50節

日本キリスト教団茅ヶ崎堤伝道所

2024年10月20日

### ① マルチン・ニーメラーの説教

今から56年前、1968年の出来事です。マルチン・ニーメラーが日本にやってまいりました。彼は第2次世界大戦時、ドイツ教会闘争を展開した告白教会の指導者で、ヒットラーと戦い、1938年に逮捕されて、8年間もの間、ダッハウの強制収容所での生活を余儀なくされました。そのニーメラーが関西学院大学で説教をなさるといふのです。当時、私は新婚ホヤホヤ。夫は関西学院大学から、そう遠くない教会の伝道師をしていました。勿論、夫と私はニーメラーを通して、ヒットラーのもと、ドイツ教会闘争、あるいは、ダッハウでの厳しい強制収容所生活の話が聞けるだろうことを期待して関西学院大学に行きました。大講堂に集まった他の方々も、同じような期待をもって集まった方々も多かったらうと思います。けれども、ニーメラーは、私たちの期待に反して、苦しかった自らの体験には殆ど触れませんでした。その代わりに、戦後、まもなく見た、という「夢の話」をして下さいました。こんな夢です。ニーメラーの前に「黒い雲」が、突然、現れてきました。

### ② 「黒い雲」と「黄金の雲」

その「黒い雲」に続いて、もう一方から「黄金の雲」が現れてきて、彼の目の前で、「黒い雲」と「黄金の雲」が出会いました。その時「黒い雲」の中から忘れもしないあのアドルフ・ヒットラーの声がしたと言うのです。「主よ、お赦してください」と。すると「黄金の雲」の中から神様の声が聞こえました。「お前は、なぜ、あのようなことをしたのか」。ヒットラーは「お許してください。私は、あなたの福音を知りませんでした。誰も私に教えてくれなかったのです。福音を私は一度も聞いたことがないのです。全く、福音を知りませんでした」と。夢から覚めた時ニーメラーは、びっしょり汗をかいていました。今まで気づかずにいた自らの大きな罪を指摘され、汗まみれになっていました。そして彼の内に深く迫ってきたのは、ヒットラーの大罪は、私たちクリスチャンの罪だったということでした。熱心に伝道しなかった罪のゆえに、あのような悲劇が歴史の中に起こってしまったのだ。そう彼は深く悔い改めて懺悔し、全世界に出て行って福音を宣べ伝える牧師になったそうです。

### ③ 大きな愛

今日のお話しに出てくる女の人は、皆から「神様の約束を守らないダメな人だ」「罪人であるから、一緒に食事なんかしたくない」と言われ、嫌われていました。イエス様があるお家で食事をしている時、その女の人はイエス様の足を自分の涙でぬらし髪の手でその足をぬぐって高価な香油を塗りました。その女の人に向かってイエス様は、「あなたの罪はゆるされたよ」と言いました。どんな人でも、嘘をついたり悪い事をしてしまったりします。そんな時、神様に、「ごめんなさい。今日こんな事をして、その人を傷つけてしまいました。もうそんな事をしないように力づけて下さい。明日その人に『ごめんなさい』を言えますように」と神様にお話ししましょう。神様は私たちにゆるし、励まして下さいます。神様の恵みに応えて、互いを受け入れ、共に愛の業に生きる時、神様の平安があります。

(祈り) 我らの主にして、すべてを支配したもう全能の神さま!

どうか私たちの耳を開いて、御霊が私たちに告げる課題と使命とを聞き取らせて下さい。どうか私たちの目を開いて、あなたの御子イエス・キリストの福音を聞こうと待っている人々を見出させて下さい。私たちの足を、その人たちに向けさせ、私たちの口を開かせてあなたのご支配について、御子イエス・キリストについて語らせて下さい。我らの主イエス・キリストによって アーメン